



# 令和7年度 第57回 社会保険労務士試験 速報講評

ユーキャン社会保険労務士講座指導部

## ■ 選択式 ■

### ●全体●

科目単位でみると、易しいレベルから難しいレベルまであり、労働科目（問1～問4）で科目による難易度のばらつきが大きくなっています。

### ●労働科目●

労働科目では、雇用保険法が易しいレベル、労働基準法及び労働安全衛生法と労働者災害補償保険法が普通レベル、労務管理その他の労働に関する一般常識が難しいレベルといえます。

社会保険科目に比べて問題文が長く、科目による長さの違いもありました。また、判例からの出題が、前年度と同様に、労働基準法、労働者災害補償保険法と労務管理その他の労働に関する一般常識の3科目でありました。

労務管理その他の労働に関する一般常識は、全8問の中で最も難しく、長文である判例の問題（空欄DとE）の得点状況が鍵を握りそうです。

雇用保険法は、改正事項からの出題もありましたが、全8問の中で最も易しい問題でした。

### ●社会保険科目●

社会保険科目では、社会保険に関する一般常識が普通からやや難しめのレベルであったほか、厚生年金保険法と国民年金法は普通レベル、健康保険法は易しいレベルといえます。

社会保険に関する一般常識は、社会保険科目の中では最も難しい問題でしたが、選択肢を2つ程度に絞れる空欄も多くありました。

健康保険法は、基本事項を問う空欄が多く、高得点を狙える問題でした。

厚生年金保険法は、空欄DとEが具体例による問題で難易度が高めでしたが、空欄A～Cはすべて正解することも可能でした。

国民年金法は、空欄A～Cが沿革に関する問題でやや難しめでした。空欄DとEは、数字を正確に覚えていれば得点しやすい問題でした。